

今日のトピック 日本の機械受注 (2016年2月)

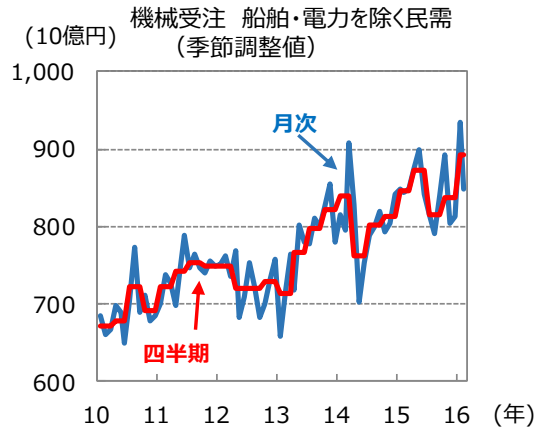
製造業が低調だが、非製造業は底堅い

ポイント1 機械受注は前月比▲9.2%
市場予想は上回る

■内閣府は、11日、民間設備投資の先行指標とされる機械受注統計を発表しました。2月の機械受注額（船舶・電力を除く民需）は前月比▲9.2%と、3カ月ぶりの減少となりました。前月から大きく減少したものの、市場コンセンサス（同▲12.0%、ブルームバーグ集計）を上回りました。

ポイント2 製造業が大幅減少
非製造業は3カ月連続で増加

- 製造業・非製造業の内訳を見ると、製造業は前月比▲30.6%と大きく減少しています。1月の鉄鋼業の大口受注で押し上げられた反動で、2月は大きく押し下げられました。
- 非製造業（船舶・電力を除く）は同+10.2%と、3カ月連続で増加しました。全体が市場予想ほど落ち込まなかったのはこのためです。ただし、こちらも振れの大きい郵便・運輸業、情報サービス業が高い伸びとなったことで押し上げられている側面があります。



(注) データ期間は2010年1月~2016年2月。
四半期は平均値。2016年第1四半期は1~2月の平均。
(出所) 内閣府のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

機械受注（季節調整値）の前月比

(前月比、%)	機械受注 船舶・電力を除く民需	
	製造業	非製造業
2016年1月	15.0	1.0
2016年2月	▲9.2	10.2

(注) データ期間は2016年1月~2016年2月。機械受注統計の抜粋。
(出所) 内閣府のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 先行きの設備投資の盛り上がり期待

- 海外景気の先行き不透明感がくすぶり、金融市場では円高・株安となる中で、製造業からの受注は当面低調さが続くと考えられます。一方、内需が低迷する中でも、非製造業からの受注はある程度底固く推移するものと考えられます。内閣府は機械受注の基調判断を前月までと同じ「持ち直しの動きがみられる」に据え置きました。
- 日銀短観では、設備投資計画はほぼ例年並みとなり、設備投資に対するスタンスが悪化していないことが示されました。設備投資計画は時点が進むにつれて上方修正される傾向があります。金融市場が落ち着きを取り戻せば、機械受注が持ち直し、設備投資増加へとつながることが期待されます。

ここもチェック! 2016年4月11日 「街角景気」、先行き判断は低下（日本）
2016年4月1日 日銀短観と市場動向（日本）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。